

あずまていね

いい

ていね 探偵



地域で支え合い活動が行われています

手稲鉄北地区 包丁研ぎを開催



令和3年4月より、コロナ禍における住民同士の情報交換ツールとして「みんなの声を伝える伝言板」を鉄北コミュニティプラザに設置し、春と秋の年2回実施しています。

初年度の取り組み後、「伝言板が住民アンケートになるのでは」とアイデアをいただき、令和4年の伝言板には住民アンケートを交え「ちょっと手伝ってほしいこと」「一緒にできること」をお聞きしました。

内容の一部に「包丁研ぎ」があり地域の方々との検討を重ねた結果、「包丁研ぎできる人、うちの町内にいるよ」「ニーズが出てきたならマッチングしていこう」というご意見をいただき、地域の皆様に協力を得て令和5年6月にサロンいなやま、11月に山口団地会館にて実施しました。

参加者からは「以前より切れ味が良いので、調理をするのが楽しくなった」「切れがよく、料理が美味しかった」との感想をいただきました。

令和5年11月29日（水）に、新発寒地区の老人クラブ「新発寒寿会」の役員のみなさんと生活支援連絡会（協議体）を開催しました。生活支援連絡会（協議体）とは、地域のみなさんや関係機関が集まり、地域の中で「こんな支え合いのしくみがあったらいいのに…」「●●に困っている」など、地域のみなさんと5年・10年先の将来の地域の姿について話し合う場になります。

当日は、会員向けのアンケート調査を実施した結果、「買い物」が話題の中心となりました。

今後は、老人クラブ会員へアンケートの結果を共有し、具体的な解決策を探りながら、支え合いの地域づくり・仕組みづくりを一緒に考えていく機会や場を持ち、協力しながらつながりの輪を広げていきます。

新発寒地区 生活支援連絡会を開催



生活支援コーディネーター(生活支援推進員)とは？

ひとり暮らし世帯や支援を必要とする高齢者が増加する中、地域組織やボランティア、老人クラブ、社会福祉法人、NPO、民間企業など地域の多様な主体が連携を図り、ちょっとした生活の困りごとを解決する高齢者の生活支援「**支え合いの仕組みづくり**」を行います。

生活支援推進員の役割

地域資源の把握

地域にある様々な情報を把握します

サロンやボランティアグループ、地域にある自然な支え合い活動などの社会資源を把握して、みなさんと共有します。

話し合いの場づくり

みなさんと話し合う場を設けます

地域のみなさんと5年・10年先の将来の地域の姿を話し合う場を設けます。

困りごとの把握・共有

生活に関する困りごとを調べます

地域住民の困りごとについて、アンケートや聞き取り調査などで把握・分析し、住民のみなさんや関係機関と一緒に、解決方法を考えます。

担い手の育成・発掘

元気な高齢者の社会参加を応援します

住民への説明会、ボランティア講座やワークショップの開催などを通じ「住民主体の支え合い」の重要性を伝え、地域の困りごとを支援する担い手を養成します。

はじめての地域ボランティア講座で「助け合いゲーム」を実施しました。



令和5年10月19日・26日の2日間、手稲区民センターで「はじめての地域ボランティア講座」を開催し、生活支援コーディネーターは「助け合いゲーム」を行いました。

困りごとが書かれてある60種類のカードの中から困っていることを選んで、グループの人に伝え、助けてくれる人を探すゲームです。

参加した皆さんがご自身の困りごとを出し合い、お互いにアドバイスをし合う場面も見られ、助け合いの様子が見られました。ゲームを通して困りごとを解決に導くことができました。

これからも皆さんと一緒に地域の支え合いや、生活支援について考える機会を作っていきたいと思っています。

札幌市手稲区社会福祉協議会

〒006-0811 札幌市手稲区前田1条11丁目 手稲区民センター1階

担当：生活支援コーディネーター 渡辺

TEL 011-681-2644 FAX 011-684-8560

ホームページ <https://www.sapporo-shakyo.or.jp/about/teine-shakyo/>



社協HP